

2025年2月18日

## 小牧市と住友理工が、自然共生社会の実現に向けた 連携協定を締結

～2025年4月以降、地域環境の保全に関する事業連携・協働を推進～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 執行役員社長：清水和志）は、2月4日（火）に愛知県小牧市と「自然共生社会の実現に関する連携協定」を締結したことをお知らせいたします。本協定の締結により、生物多様性の保全および多様な生物の生息・生育場所となる地域環境の保全に関する事業の連携・協働を推進します。



SDGs 未来都市  
こまき



小牧市内には小牧山、<sup>ちこ</sup>兒の森、河川や湿地などの豊かな自然があるだけでなく、「大草のマメナシ自生地<sup>※</sup>」に代表される希少な自然も残っています。自然共生における生物多様性を保全するためには、自然環境を保全することの重要性が求められており、小牧市では自然を保全・再生し、生態系を回復する取り組みを推進しています。

当社は、以前より小牧本社・製作所（愛知県小牧市）に隣接する大山川での保全活動や特定外来生物のオオキンケイギク防除、大草のマメナシ自生地の保全活動、助成金による地域団体の活動支援など、事業活動に関わる近隣地域の環境保全・自然回復に積極的に取り組んでいます。また、小牧市内の自然共生活動がより活気づくことを目的に「小牧市自然共生パートナーシップダイアログ」を開催し、小牧市内の自然共生に関わる多様なセクター（企業・行政・市民団体・大学など）による協働促進に向けた対話を実施しています。今回、自然共生社会の実現を目的に小牧市との協定を締結することで、2025年4月以降、地域環境の保全や生物調査、自然環境学習などの取り組みを協働で実施し、小牧市の目指す将来像の1つである「豊かな自然と人がともに生きるまち」の達成に寄与していきます。



協定締結式の様子

当社グループは、天然ゴムをはじめ、大気や水、鉱物など様々な自然の恵みを利用して事業活動を行っています。今年策定した「住友理工 環境長期ビジョン 2050」では、これら自然の恵みや自然環境を事業活動によって破壊することなく、後世に引き継いでいく責任があることを認識し、自然共生社会へ貢献することを掲げました。今後も自然との共生、生物多様性保全のため、近隣地域その他、サプライチェーン全体に活動範囲を広げてまいります。

以上

※ マメナシは、バラ科ナシ属の落葉高木で、環境省のレッドリスト絶滅危惧 IB 類、愛知県のレッドデータブック絶滅危惧 IA 類に指定される希少種。「大草のマメナシ自生地」は国内最大の自生地の一つで、自然状態で世代交代ができる環境が長期にわたり維持されているという点で価値が高く、愛知県の天然記念物に指定されている。

―― 住友理工について ―――

住友理工は1929年に創業し、名古屋市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車（モビリティ）分野では、振動を制御する世界トップシェアの防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の制音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、インフラ・住環境、エレクトロニクス、ヘルスケアの各分野でも事業を展開しています。世界20ヶ国以上に広がるグローバルネットワークを活用して、“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先  
**住友理工株式会社**

広報IR部 / 〒450-6316 名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋  
tel 052-571-0259 e-mail [product.info@jp.sumitomoriko.com](mailto:product.info@jp.sumitomoriko.com) <https://www.sumitomoriko.co.jp/>